

発行：北恵株式会社 〒 541 - 0054 大阪府中央区南本町 3 - 6 - 14 TEL.06 - 6251 - 6701
http://www.kitakei.jp/

建設業の人材確保・育成に向けた概要を取りまとめ

国土交通省と厚生労働省は建設業の人材確保・育成に取り組むための令和3年度予算案概要を取りまとめ、昨年12月25日に発表した。同案のポイントとして両省は①「人材確保」、②「人材育成」、③「魅力ある職場づくり」――の3つを掲げている。

具体的に①では、建設業への入職や定着を促すため、建設業の魅力向上やきめ細やかな取り組みを実施するため、「誰もが安心して働き続けられる環境整備（社会保険加入の徹底・定着等）」（3000万円）や「建設事業主等に対する助成金による支援」（60.9億円）等を計上している。

②では、若年技能者等の育成等の環境整備に向け、「地域建設産業の生産性向上及び持続性の確保」（1100万円）、「建設キャリアアップシステムの普及・活用」（9600万円）、「中小建設事業主等への支援（建設労働者育成支援事業等）」（5.7億円）等を行う。

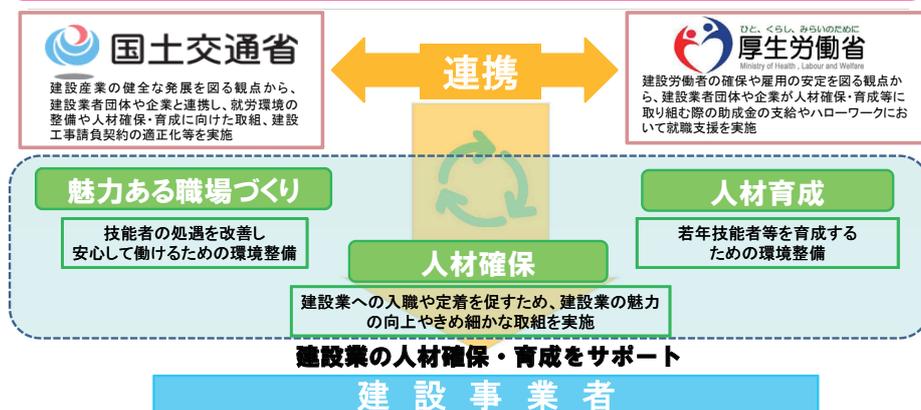
③では、技能者の処遇を改善し、安心して働けるための環境整備として「建設産業の働き方改革の実現」（1億4300万円）、「デジタル・ガバメントの推進」（3億8100万円）、「働き方改革推進支援助成金による支援」（65.4億円）、「働き方改革推進支援センターによる支援」（66.8億円）等に取り組む――としている。

今回、主な新規の取り組みとしては「建設キャリアアップシステム普

及・活用に向けた官民施策パッケージの推進」が挙げられる。具体的には▼建設キャリアアップシステムとマイナンバーカード・マイナポータルの連携構築、▼建設キャリアアップシステムや建設技能者の能力評価制度と連動した専門工事企業の施工能力等の見える化評価制度の普及・定着に向けて、説明会・講習会等を実施――すること等を予定している。

国土交通省の担当者は今回の予算案について、「デジタル化、オンライン化に向けた予算を充実させた他、2019年から引き続き女性の定着促進や社会保険の加入に向けた取り組みも引き続き盛り込んでいる。建設業の大きなテーマである生産性向上と処遇改善、働き方改革を進めていくための予算措置をした」と話す。世間一般からは未だに、アナログで上下関係の厳しい、いわゆる「3K」のイメージが残る建設業界。まずは業界全体でこのイメージから脱却し、他産業との人材確保競争に負けない魅力ある職場づくりを進める取り組みが求められている。

建設業の人材確保・育成に向けて（令和3年度予算案の概要）



換気と通気で住まい手の健康を

2050年に向けた温暖化ガス排出量ゼロの実現や、住まい手の健康を維持するための温熱環境改善——。これらの目標は高気密高断熱住宅やZEH等省エネ住宅の普及によって解決するかもしれない。しかし、住宅が高気密化していくなかで、住まい手のメンテナンスに対する認識不足により換気不良が発生してしまうケースもある。健康住宅を手に入れたはずなのに、気密化の影響で住まい手の健康に被害が生じてしまえば本末転倒だ。このようなケースを防ぐための換気について紹介したい。

24時間換気のフィルター製品により掃除方法異なる

換気とは住宅内の負圧を利用した自然換気と、ファン等を電気で回して強制的に換気を行なう機械換気があり、これらを組み合わせることで室内の換気を効率的に行なうことができる。現行の建築基準法で定められている「24時間換気システム」は両者の組み合わせによって以下の3種類に分けられる。

①第一種換気方式：給排気を機械で行なうもので、換気効果は高いがコストが掛かるとされている。②第二種換気方式：機械給気と自然排気を組み合わせたもの。主に工場やクリーンルーム、無菌室で使われている。③第三種換気方式：自然吸気と機械排気を組み合わせたもので、住宅で最も多く採用されているとされる方式だ。給気に機械を用いないことでコストが削減できるメリットがある。

——ただし、これらは住宅内に外気を取り入れると冬の場合、暖めた住宅内に屋外の冷たい空気を取り入れてしまうことになる。そこで冷房効率が落ちないように対策となるのが、温度だけを熱交換して給排気する「全熱交換式システム」と、温度と湿度を熱交換し給排気する「顕熱交換式システム」だ。熱交換とは給気する空気の熱と排気する

空気の熱を機械の中で中和するというもので、全熱交換式は比較的高温多湿な地域で、顕熱交換式は北海道等寒い地域で採用されるケースが多い。

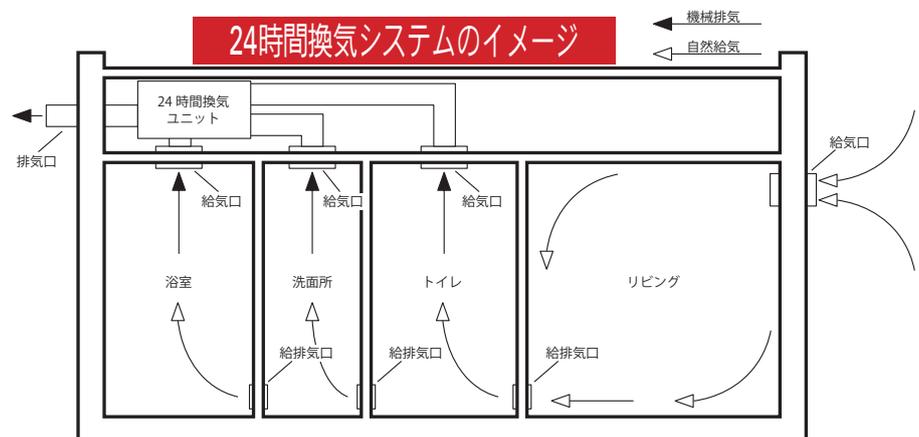
24時間換気システムの主な役割は室内に滞留する有害物質を外へ排出することである。例えばシックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒド等の有害物質やPM2.5、花粉等が挙げられる。新型コロナウイルスの感染拡大が続く現在、このシステムを正しく使用することが求められる。

24時間換気システムの使用で重要なことは、概ね1カ月に一度必要といわれるフィルターの清掃だ。フィルターが汚れたままの場合、吸気効率が落ち、換気システムのスイッチを入れていても十分に換気されない状況が発生してしまう。また、フィルターは製品によって水洗いができるものや使い捨てのタイプもあるため、取り扱いには注意が必要だ。

高断熱で小屋裏温度も高く小屋裏通気で結露対策を

24時間換気システムの設置が法律で義務付けられている一方で、小屋裏等住宅の通気確保は義務付けられていない。通気対策を取らなかった場合、例えば天井断熱では、居住スペースの熱が小屋裏に籠ってしまう。屋根断熱でも同様に屋根内に熱が籠る。暖かい空気は多くの水蒸気を含むことができるため、外気温との温度差で結露が発生し、甚大な被害をもたらす可能性が高い。

実際の事例として屋根の垂木や野地板が結露の被害に遭い、全面に黒カビが発生したケースが報



告されている。被害が甚大な場合はカビた建材を全て取り替えなければならない。補修工事の際には既存屋根を撤去しなければならない可能性は高いため、工事の規模も大きくなる。補修工事中は住まい手が別の住まいを用意しなければならないなど、暮らしの負担は大きい。また、結露は住宅瑕疵担保保険の対象外となるため、住まい手の経済的負担も大きいといえる。

そこで小屋裏の通気を確保し、木材を湿気から守る「棟換気」が必要となる。これは屋根の上部に設置する換気システムで、空気を逃がし、雨を防ぐものだ。木材は乾燥しているほど強度が高く

なるため、耐震性も向上するといえる。

しかし、屋根に孔を開けるため「雨漏りが発生するのでは」という誤った認識を持つ住まい手も少なくない。この誤解は工務店が正しく施工業者を選ぶことで払拭できる。棟換気を検討する際には、製品を製造販売するメーカーから業者を紹介してもらうのも良いかもしれない。

高機能な住宅を施工する際、それに伴う暮らしや施工の変化にも気を配ることは工務店の役割の一つ。住まいを長持ちさせるためには正しい換気と通気対策が必要だ。そのためには、設計段階で結露が発生する住宅にしない注意が必要だ。

連載：木造住宅の歩み（第2回）

今回より木造住宅の構造についてお話しするのですが、構造と言っても躯体工法や耐力壁の話ではなく、少し違った視点でお話ししたいと思います。

近年の木造住宅の構造において、大改革を起こした建材が2つあると私は思っています。その建材は今では無くてはならないものです。

私は学生の頃、シロアリ駆除業者でアルバイトをしたことがあります。床下に潜って土台に薬剤を注入するのですが、とにかく床下は湿気が多く、クモやゲジゲジ、ムカデなどが生息し、ときには、通気口の破損部分から侵入して最期の時を迎えたと思われる猫の亡骸が見つかるなど、けっして気持ちの良い空間とは言えないものでした。

一つ目に紹介する建材は、そんな“陰”のイメージがあった床下空間に大きな変化をもたらした“改革者”「キノパッキン」です。建築基準法において土台は「構造耐力上重要な部分」であり、それを支えるキノパッキンは木造住宅の構造の要と言ってもよいでしょう。

私が初めてその商品を知ったのは今から30年程前の平成4～5年頃の事です。当時城東化学工業(株)（現：城東テクノ(株)）の営業の方が、新商品として持って来られたのがキノパッキンでした。その商品コンセプトは素晴らしいもので、当時木造住宅が抱える懸案事項を解決してくれるものでした。主なものは以下の3点です。

① 木材とコンクリートは相性が悪く、密着させればコンクリートに含まれる水分で木材の腐

朽が促進されます。さらに含水率の上昇した木材（or 腐朽）部分はシロアリの恰好の的にもなるので、今より土台の腐れ被害は多かったと思います。キノパッキンを使うことで木材とコンクリートを分離することができ、土台は乾燥するため腐朽防止に効果があります。

② 当時の一般的な床下換気の方法は、基礎外周部に通気口を設け、床下換気を行うというものでしたが、それでは十分な通気を取ることができず、床下は湿気が高く木材腐朽の確率が高い状態でした。キノパッキンを使うことで、局所換気が全周換気となり、床下の通気量は劇的に改善し床下空間の乾燥に有効です。

③ 基礎外周部に設ける通気口の隅部分には多くの場合クラック（ひび割れ）が走っていました。地震や地盤の影響などで基礎通気開口の隅部に応力が集中し、コンクリートにひび割れが生じるのです。このひび割れから基礎コンクリート内に雨水が入り、鉄筋を腐食させて基礎の弱体化を招きました。キノパッキンを用いる事で外部基礎開口は不要になるため、基礎の強化に役立ちます。

さぞかし売れるだろうと、早速販売店同行を行い、工務店を廻りましたが、当初はさっぱり売れませんでした。売れない理由を一言で言えば「不安を払拭するのは時間が掛かる」でした。

【つづく】

北恵レポート担当 O

キタケイの提供する2つのプライベートブランド
環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”
天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”
企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりを
バックアップします。



[www. sprout-univ. com](http://www.sprout-univ.com)

<p>環境 SPROUT UNIVERSAL BLUE こちよい住環境</p>	<p>ぬくもり SPROUT UNIVERSAL ORANGE 住まう人のために</p>	<p>素材 SPROUT UNIVERSAL GREEN 永く使ってほしいから</p>



[www. relaxssingwood. com](http://www.relaxssingwood.com)

リラクシングウッド 無垢フローリング シリーズ

